

出土している。下佐野例は、器形的に口縁が直上する点、地文縄文を施文している点及び内外面赤彩（器内面獣脂附着）という点こそ異なるが、近似例として重要である。いずれにせよ、「吊す」機能を備えていたことが大きな特徴で、「ハレ（祭りなど）」に使用された器として捉えられる。

以上から、8-001の所属時期を、加曽利E 4 式期と位置づけたい。埋甕やある種の炉体土器などによる時期決定ではないものの、少なくともこれを大きく遡る時期ではないと思われる。

最後に市内での中期末葉の集落調査例（報告例）を見てみたい。（仮称）神野・保品台では、支谷を挟んだ栗谷遺跡で、竪穴住居跡3軒、小竪穴1基が検出された。廃棄された土器を見ると、A015は条線を施文した個体のみなので保留するが、A011とA038を比較する限り、A011にキャリパー形深鉢が目立ち、浮線系・沈文系意匠充填系土器も少なからず出土している。対するA038では浮線系意匠充填系土器が少量出土する。そして、D011では浮線系意匠充填系土器の出土が目立つ。いずれにしても、横位連携弧線文土器は確認されておらず、条線文系土器は安定しているという特徴がある。これらは、加曽利E 3 式（古）段階に位置づけられる。E 3 式（新）段階では栗谷の台地を含め、各遺跡とも住居遺構が検出されていない。ただし、境堀では土器が出土しているので、人々の生活の痕跡が認められる。

この時期の良好な資料は、（仮称）麦丸・萱田台の長兵衛野南遺跡にある。ここでは、比較的近接して竪穴住居跡2軒が検出された。2軒には時間差が存在しており、覆土の遺物は加曽利E 3 式（新）段階を主体とするが、報告者の森 竜哉は、覆土中の加曽利E 3 式（古）段階及びE 4 式土器の混入量の差から、遺構の埋没と廃棄の時間差を認めた上で、ライフ・サイクルを想定している（森2000）。

それは、02Dの設営・居住（遅れて01Dの設営・居住）→02D・01Dの居住（両者の共存）→02Dの廃絶・01Dの単独居住→01Dの廃絶というものである。この報文は近接し、かつ重複が認められない住居跡群の詳細な分析報告例としても様々な示唆に富む。土器としては01Dは浮線系意匠充填系土器が安定しており、横位連携弧線文土器を伴う。これは弧線文の単位化が進行しつつある点に注目し、E 3 式（新）段階と見なしたい。02Dは沈文系意匠充填系土器及び横位連携弧線文土器が出土している。

最後に、今後を見据え、八千代市内における中期末葉の時間軸の定点を定めておきたい。それは、加曽利E 3 式（古）段階→加曽利E 3 式（新）段階→加曽利→加曽利E 4 式、というものである。無論、先述の長兵衛野南例にも明らかなように、同じ時間枠で括った中でも新旧は存在するわけで、将来的にさらに細別される可能性を有する。以下は各段階における位置づけである。

加曽利E 3 式（古）段階・・・栗谷遺跡A011・A015・A038・D011

加曽利E 3 式（新）段階・・・長兵衛野南遺跡01D・02D

加曽利E 4 式・・・・・・・・・・境堀遺跡8-001

市内では、未報告例が多いものの、中期末葉の集落検出は比較的多い。今回は周辺遺跡との比較検討は行っていないため、考察とするにはあまりにも拙いが、寛恕を乞うものである。

## 参考文献

- 喜多圭介 1989 「長田雉子ヶ原遺跡・長田香花田遺跡」 財団法人印旛郡市文化財センター  
加納 実 1994 「加曽利E 3・4 式土器の系統分析 ―配列・編年の前提作業として―」  
『貝塚博物館紀要』第21号 千葉市立加曽利貝塚博物館  
森 竜哉 2000 「長兵衛野南遺跡発掘調査報告書」 八千代市遺跡調査会  
藤 茂美 2001 「千葉県八千代市栗谷遺跡（第1分冊）」 八千代市遺跡遺跡調査会  
西山太郎 2003 「瓢箪型注口土器考」 『印旛郡市文化財センター研究紀要』3 財団法人印旛郡市文化財センター







	A-1類	A-2類	B-1類	B-2類	南関東系
I	<p>A057 A096</p>				
II	<p>A091 A080 A151 境堀06-05-06 八木字廣2号住 A043 A081</p>	<p>上谷 A081 役山東A002 A091 A081</p>	<p>A083 A064 A081 向境 A001</p>	<p>A080 A069 A013</p>	<p>A080 6 A080 8 A080 1 A080 7 A080 2 A080 9</p>
III		<p>A072 A072 A033</p>	<p>A154 境堀06-01-2 A155 境堀06-01-01</p>	<p>A072 A033</p>	<p>A033 1 A033 2</p>
IV			<p>A142</p>		

図3-2-2 境堀遺跡周辺の弥生後期土器変遷図





























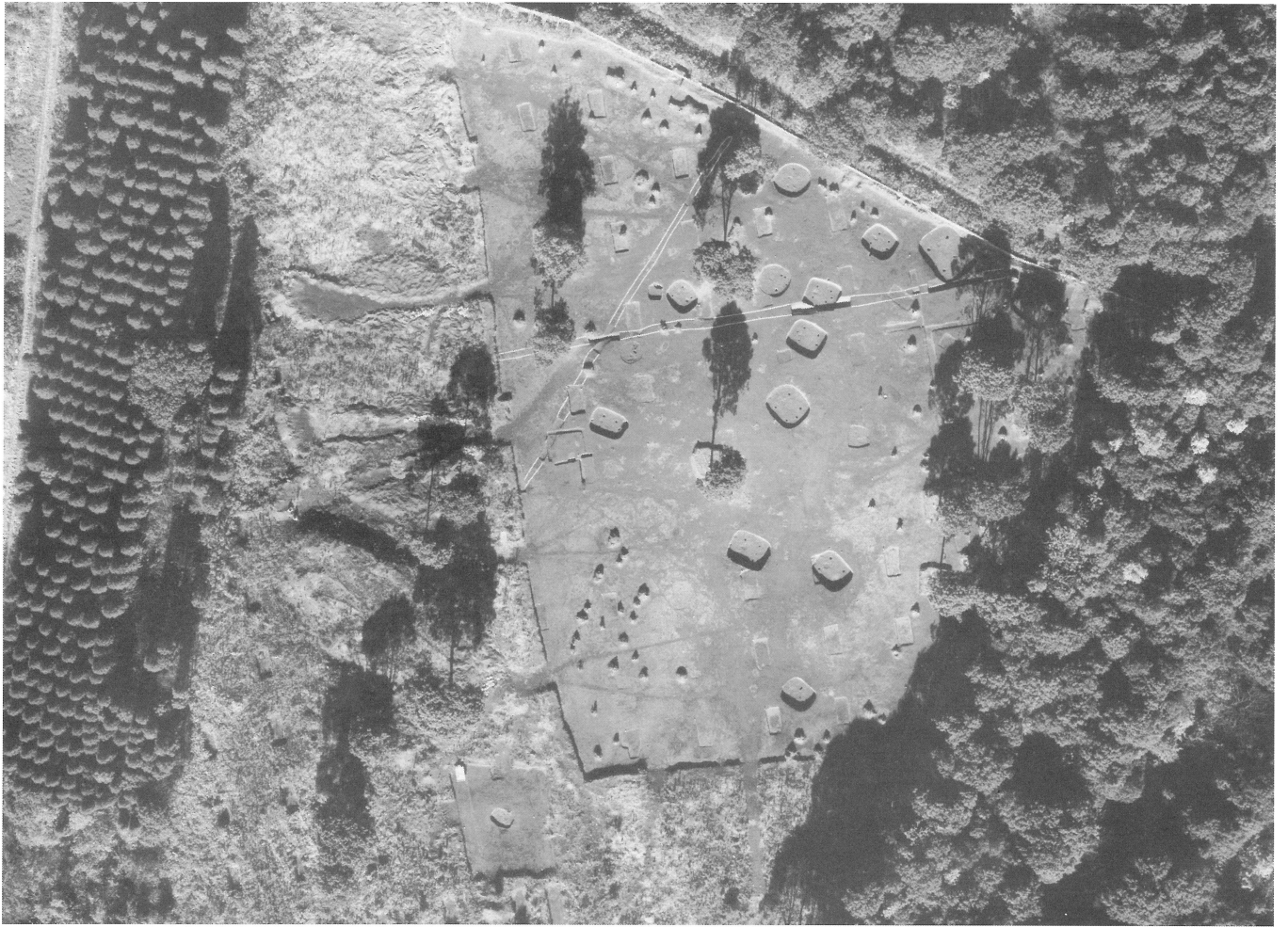








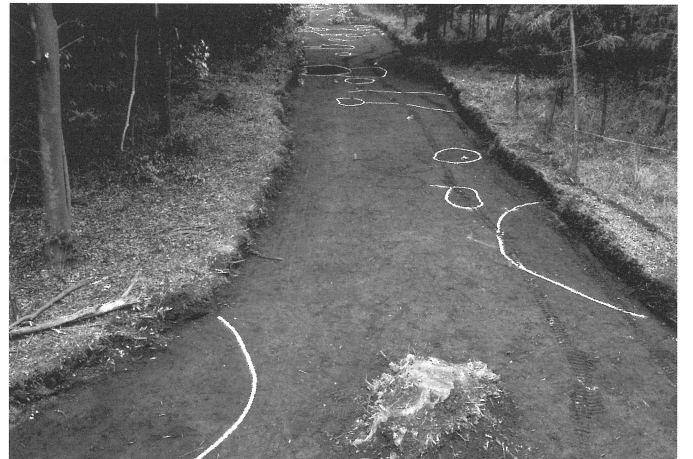
完掘全景



完掘全景



遺構検出状況



遺構検出状況



完掘全景



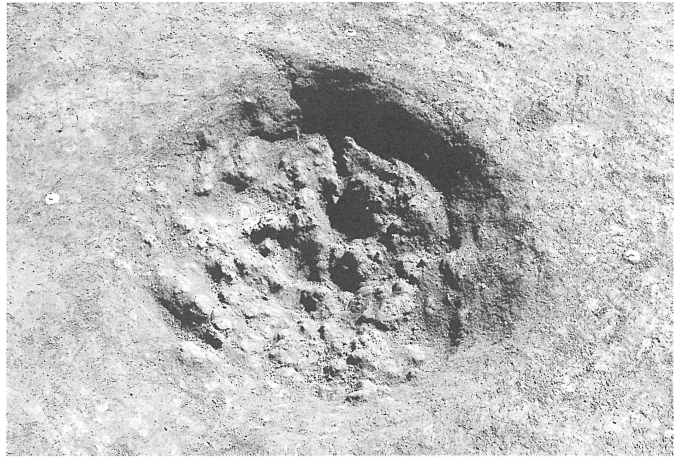
完掘全景



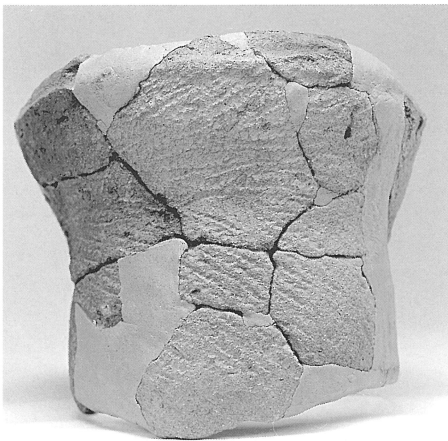
遺構検出状況



8-1



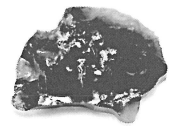
8-1



8-1



8-1



8-1



8-1



8-1



9-15



9-15



1-15



1-29



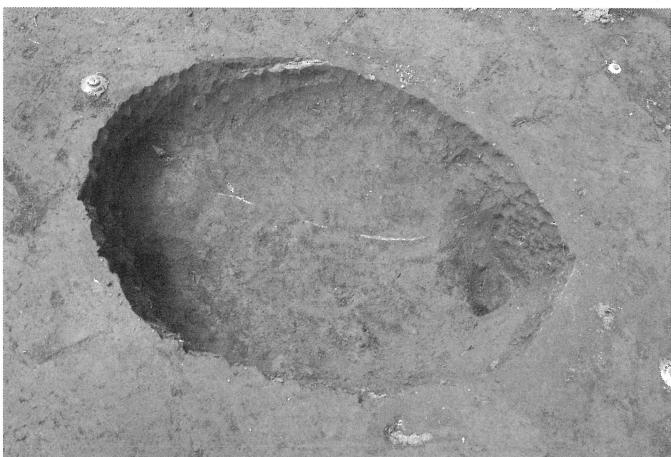
1-29



1-37



1-51



1-17

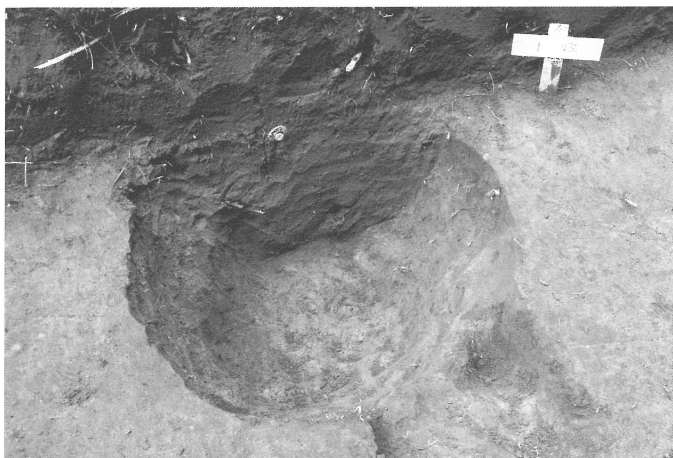




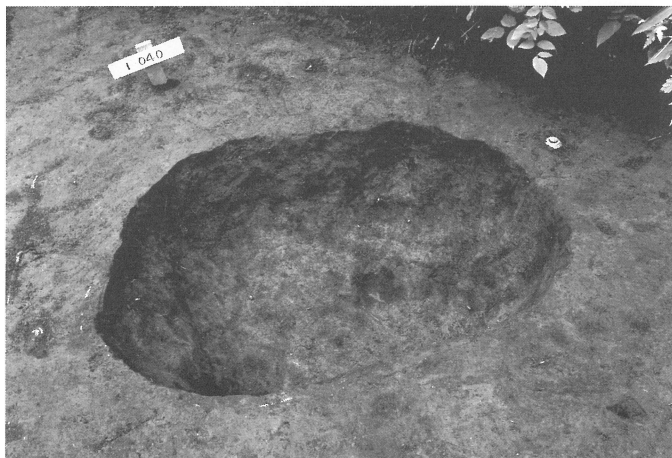
1-19



1-20



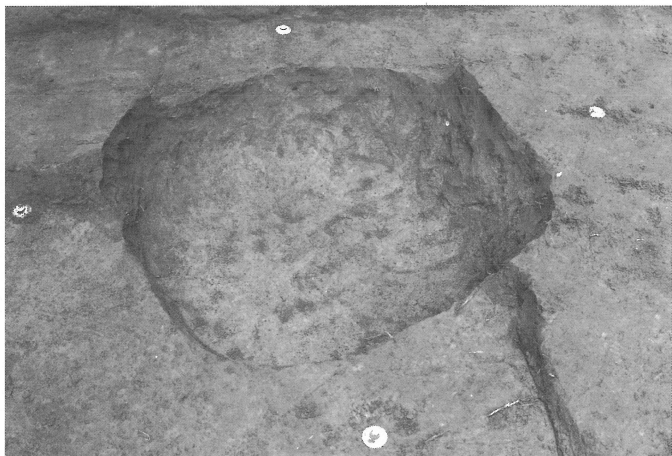
1-30



1-40



1-42



1-45



1-46



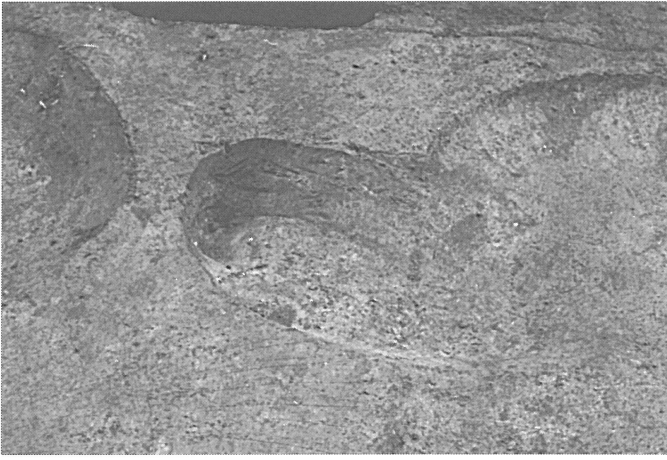
1-47



9-10



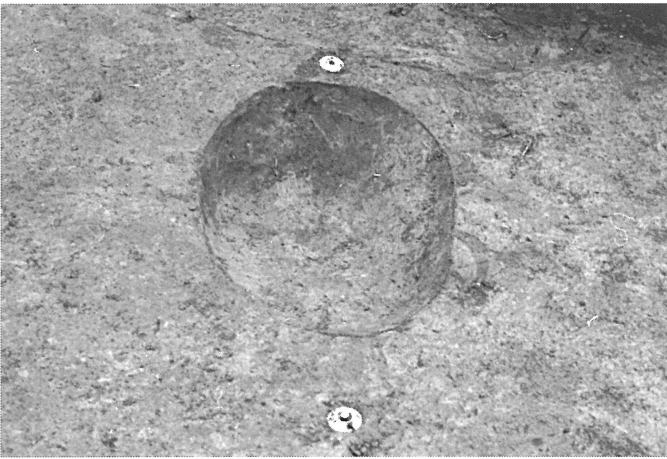
9-11



9-12



9-13



9-14



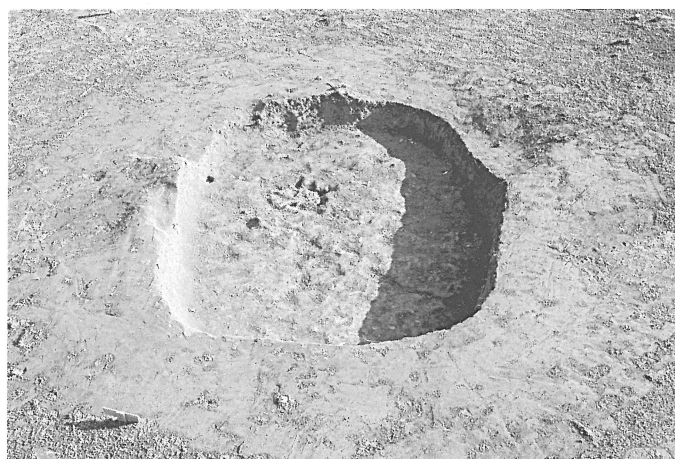
9-16



9-16



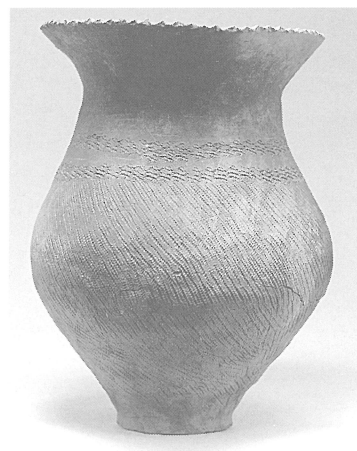
9-16



6-1



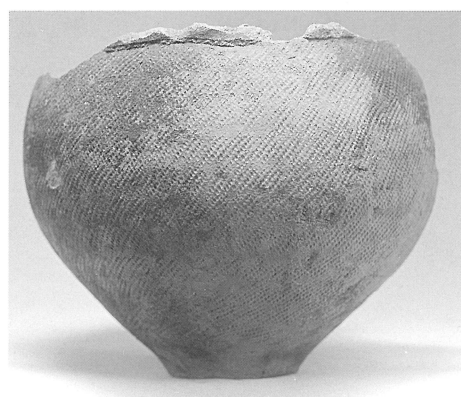
6-1



6-1



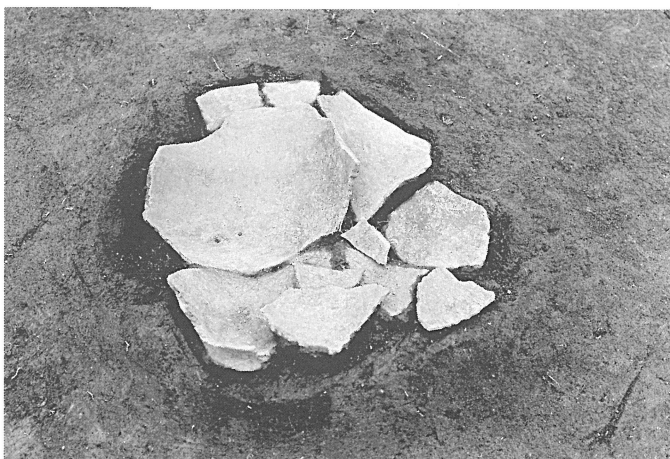
6-1



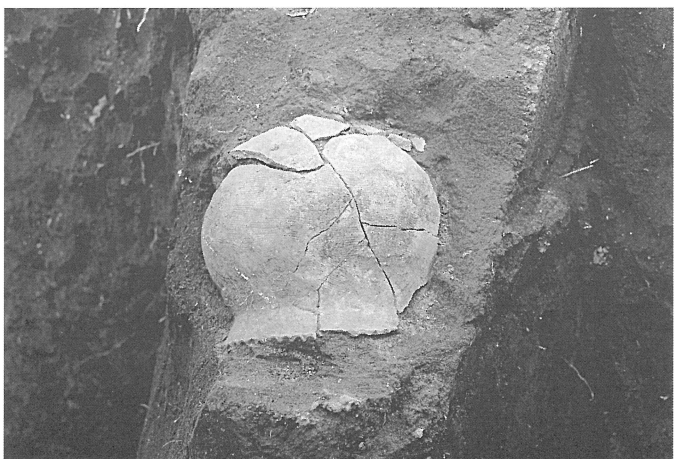
6-1



6-5



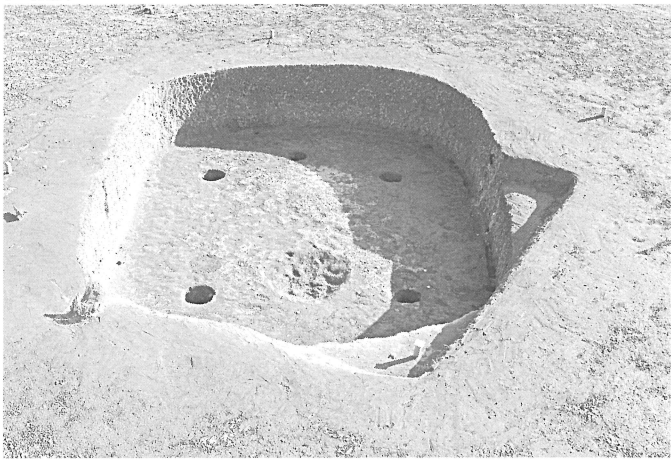
6-5



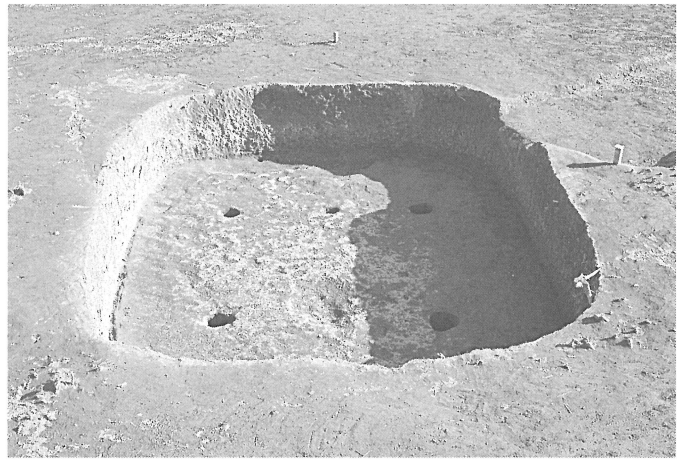
6-5



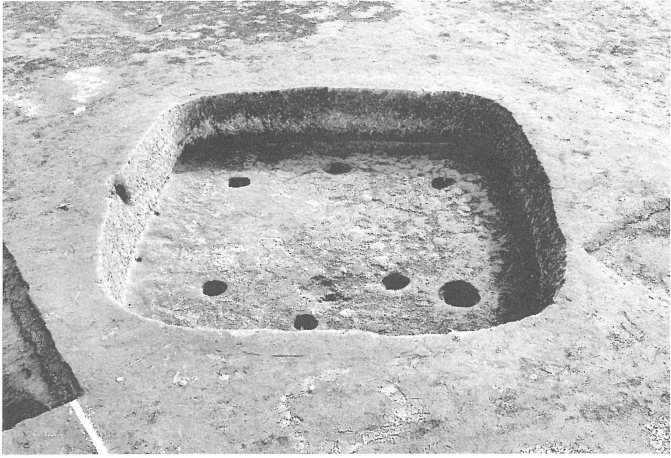
6-2



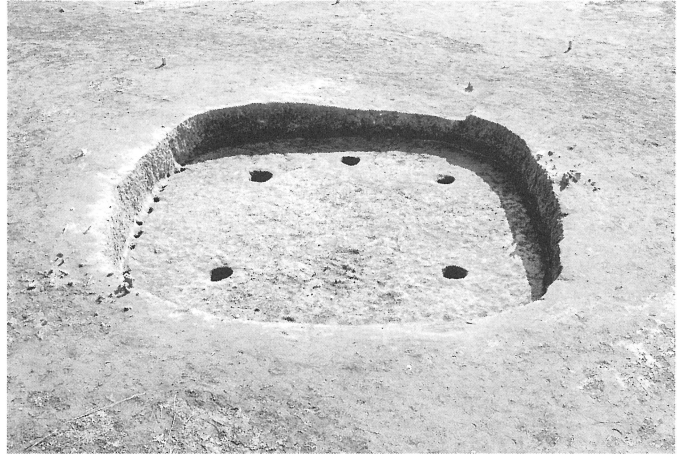
6-3



6-4



6-8



6-9



7-1



7-2



7-6



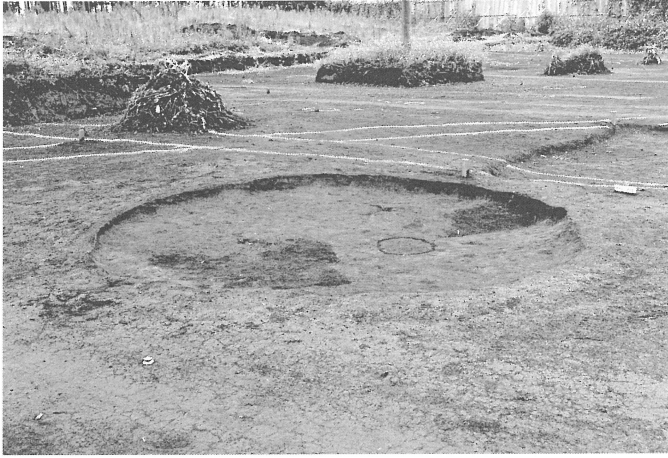
7-4



7-3



7-5



6-6



6-10



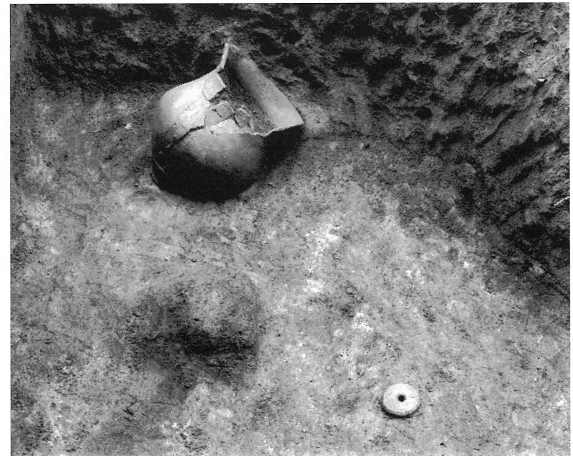
7-7



9-1



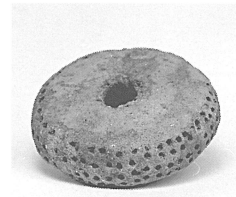
1-5a



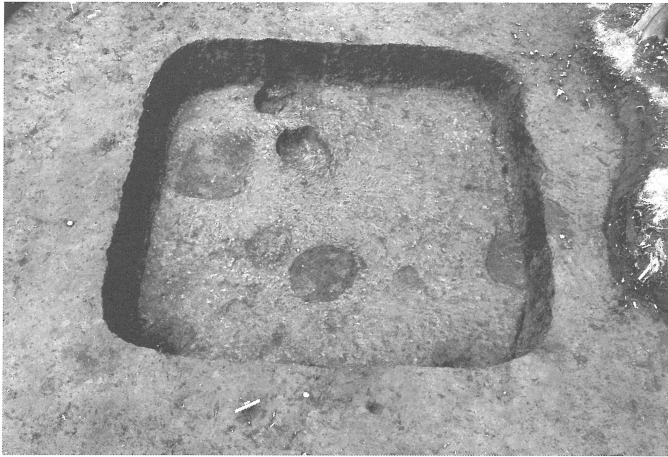
1-5a



1-5a



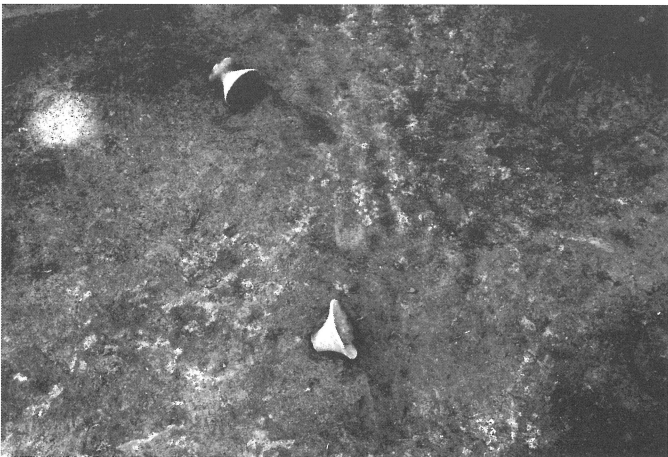
1-5a



1-11



1-15



1-10



1-10



1-9



1-9



5-3



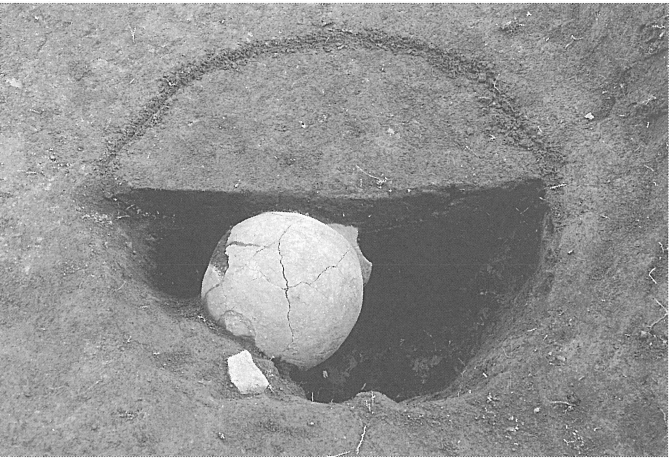
5-3



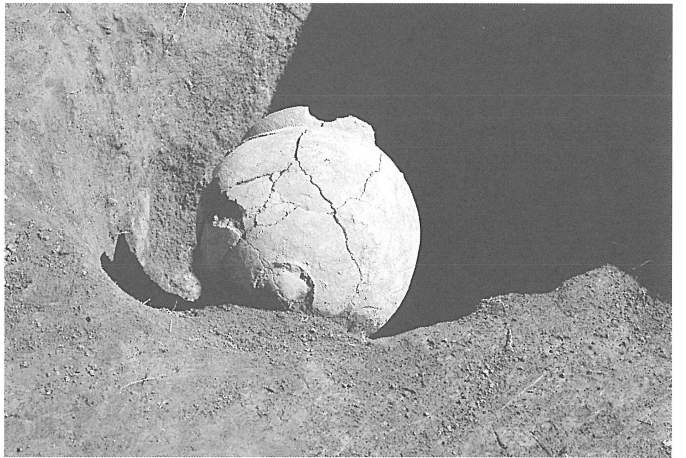
4-5



8-2



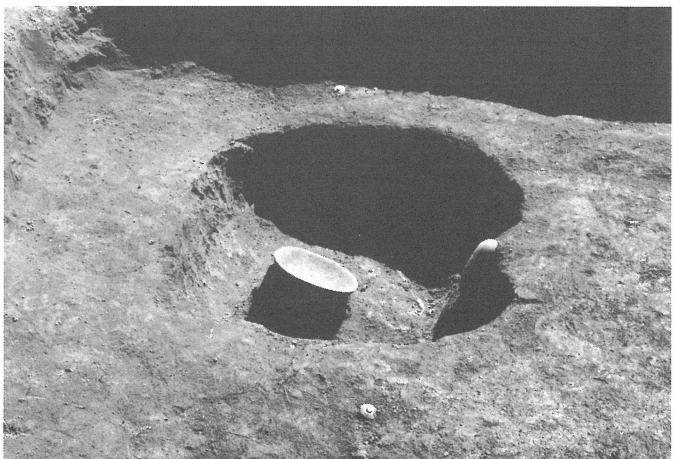
8-2



8-2



8-5



8-5



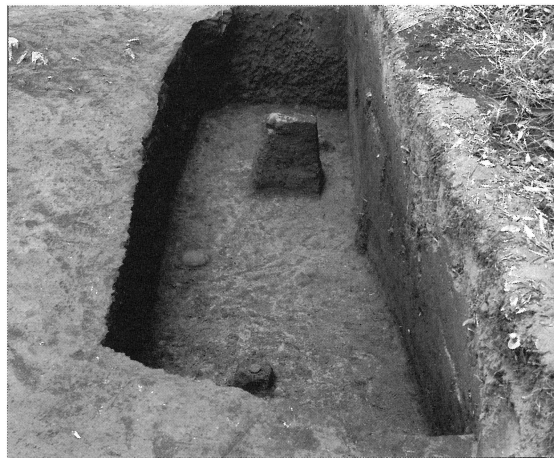
8-6



8-6



1-14



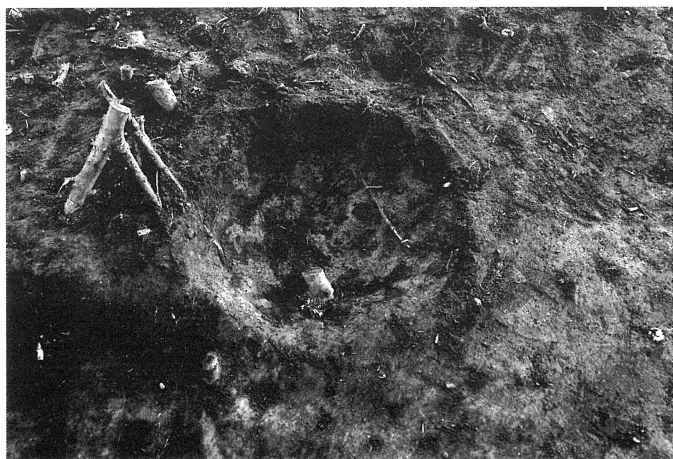
1-14



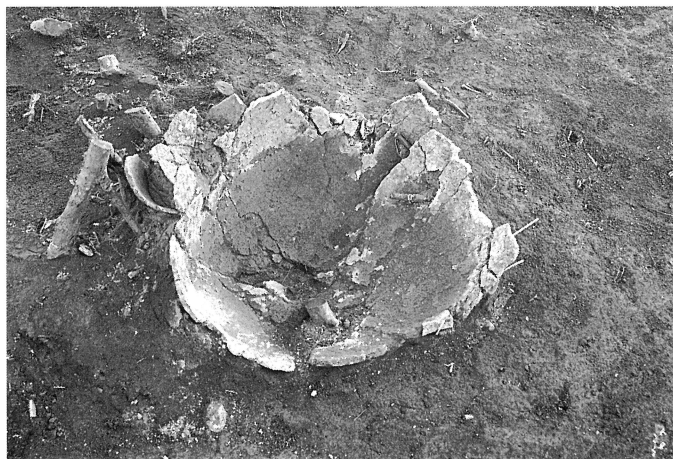
1-28



1-28



6-11



6-11

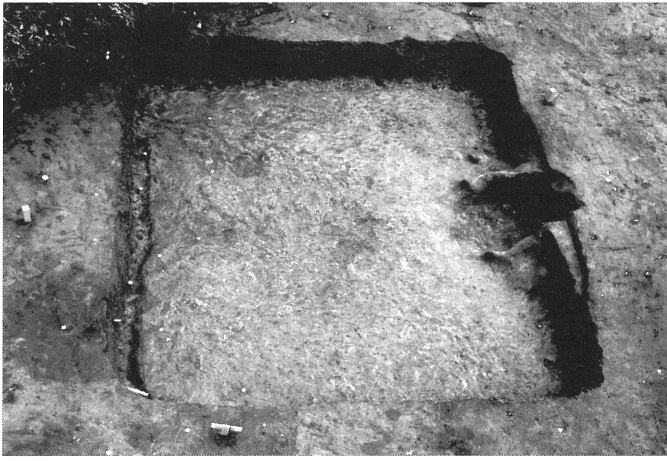




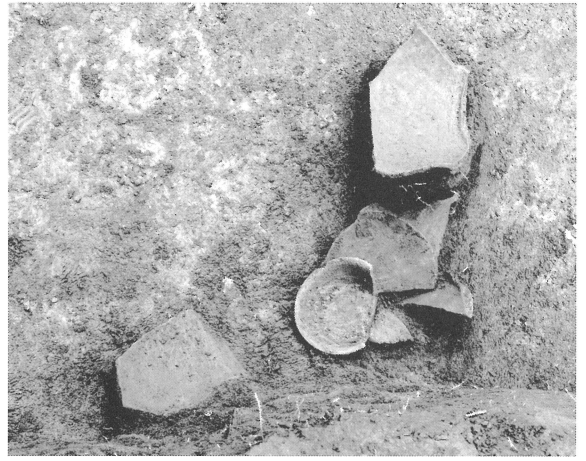
6-12



6-12



1-4



1-4



1-6



1-6



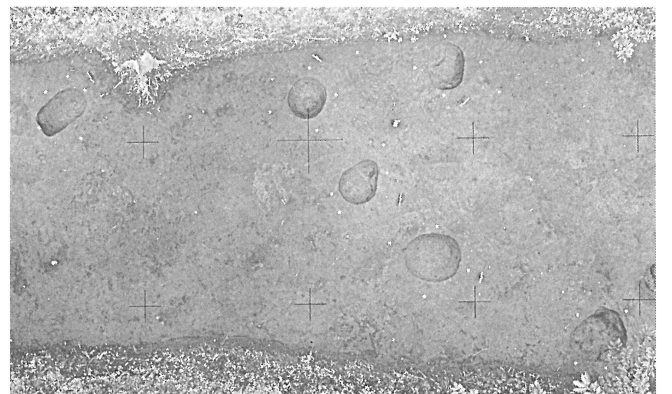
1-7



1-7



1-12a



I102



I105



1-4



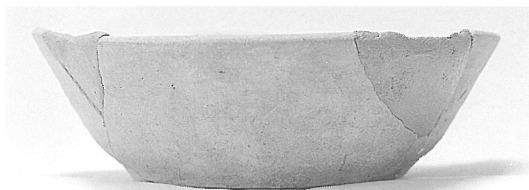
1-4



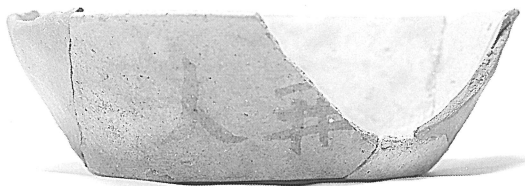
1-4



1-4



1-4



1-4



1-4



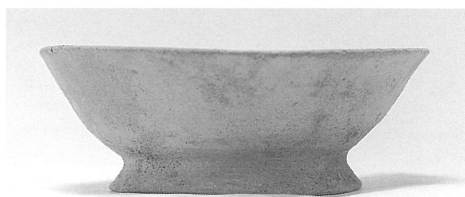
1-4



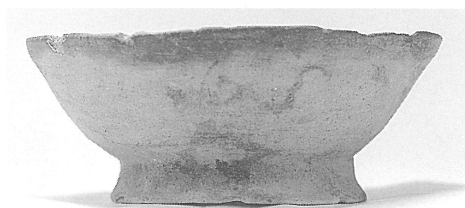
1-4



1-4



1-4



1-4



1-4



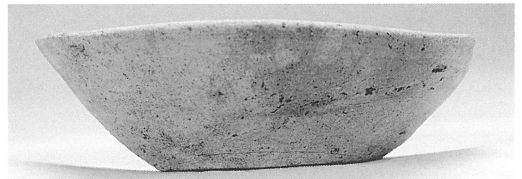
9-2



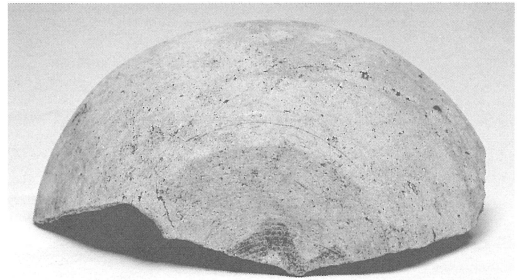
9-2



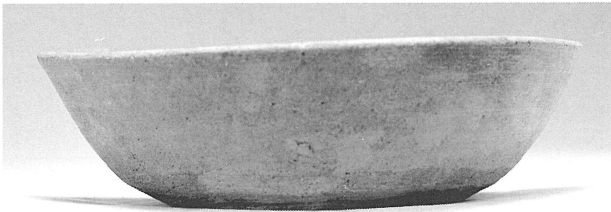
B107 9-19-22



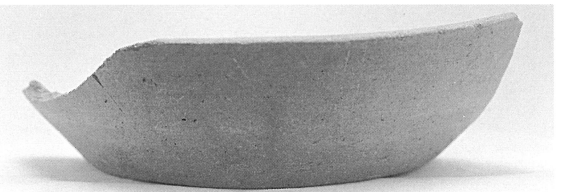
9-2



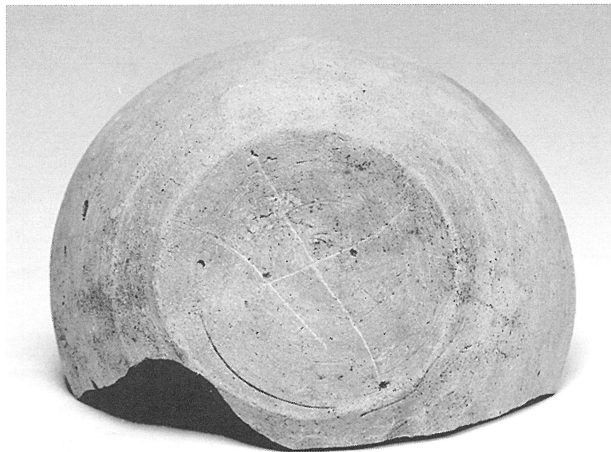
9-2



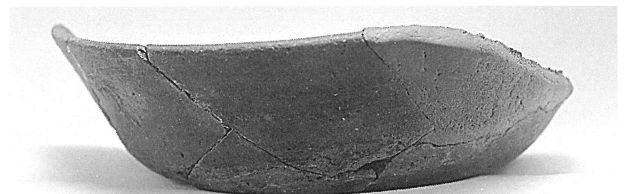
9-2



9-2

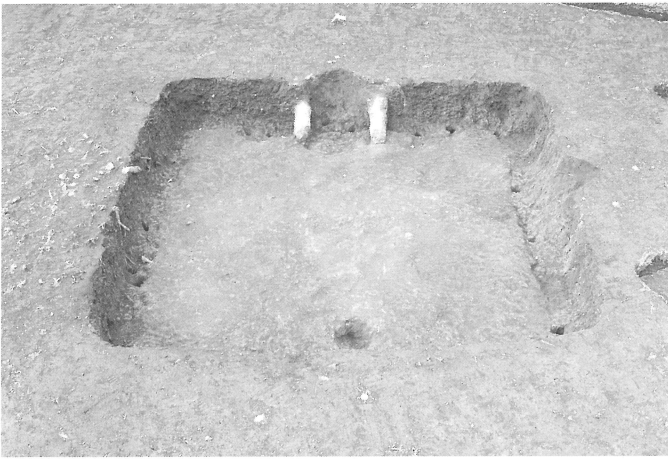


9-2



9-2





8-3



8-3



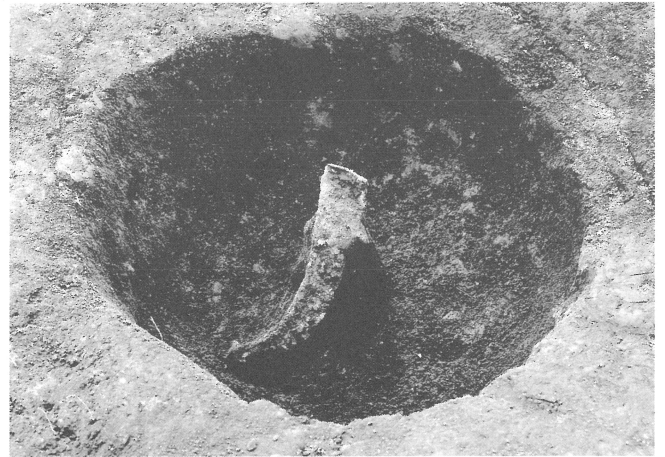
8-3



8-4



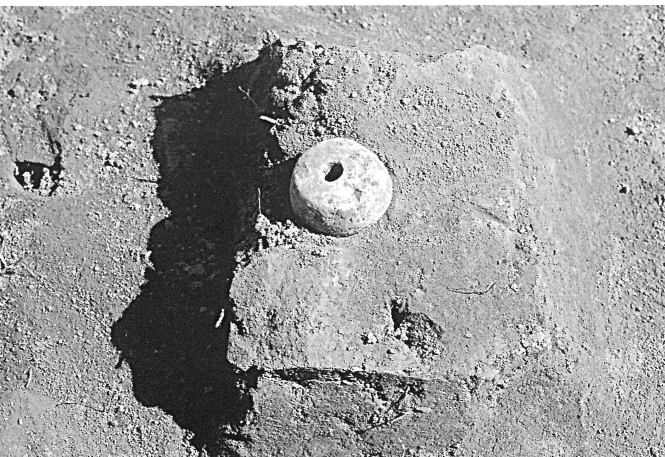
3-2



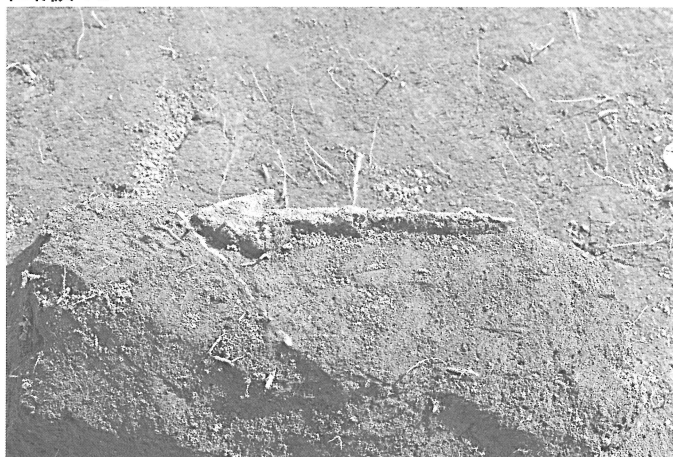
3-2



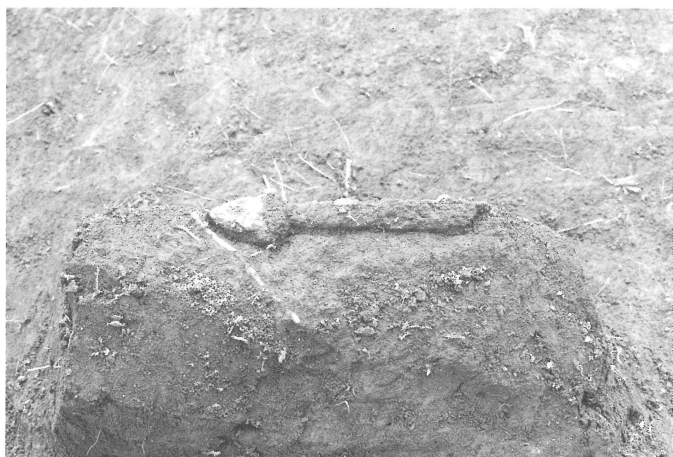
4-4



4-4



4-4



4-4



3-1



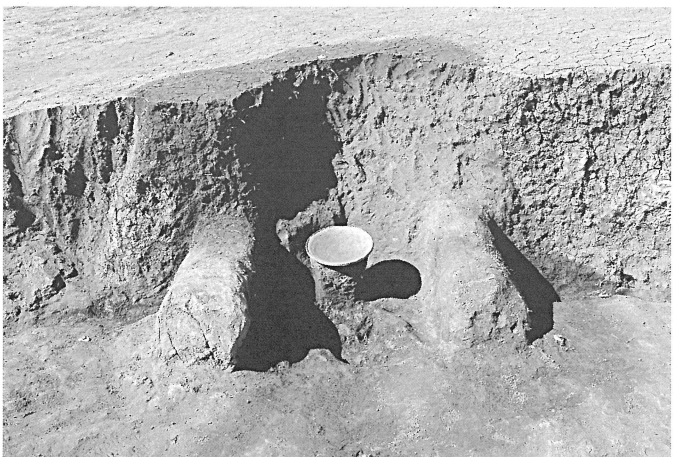
4-1



5-7



5-7



5-8



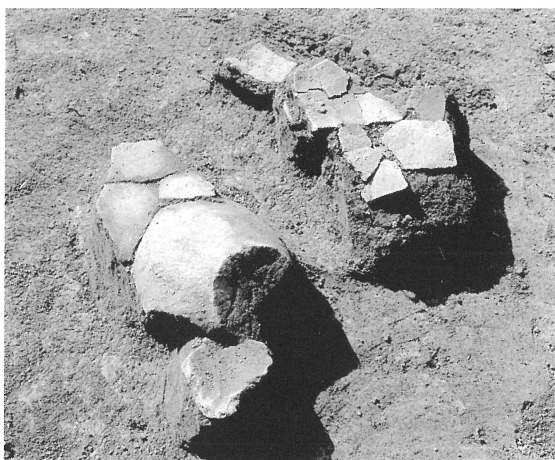
5-2



1-1



1-1



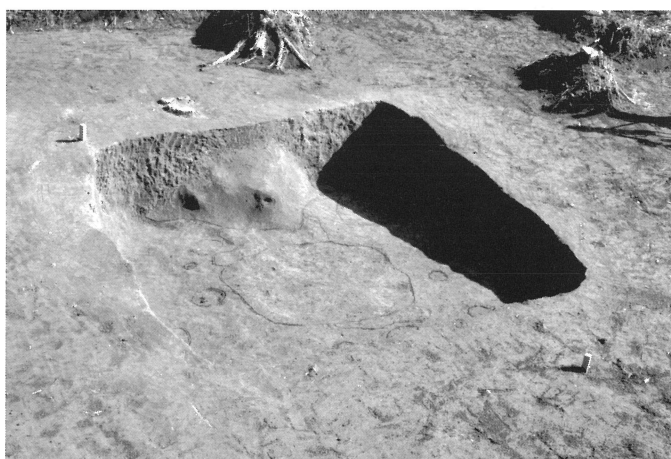
1-2



1-2



1-3



1-3



8-16-4 B108



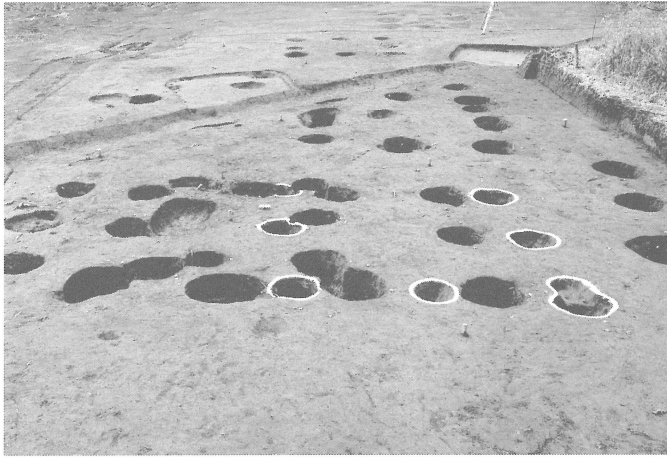
8-16 B108



8-10



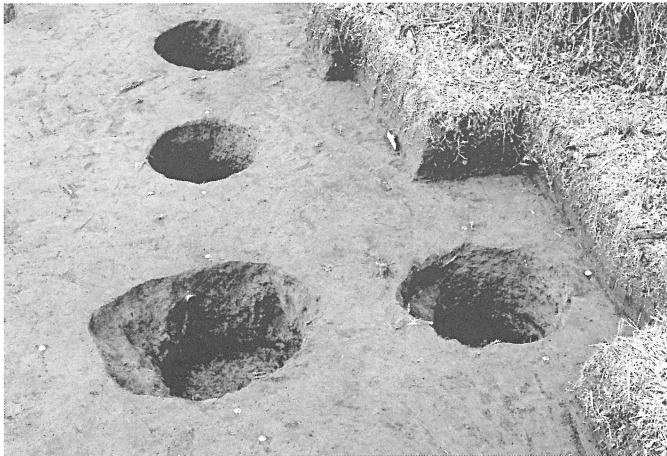
8-10a B109a



B109b 8-10B



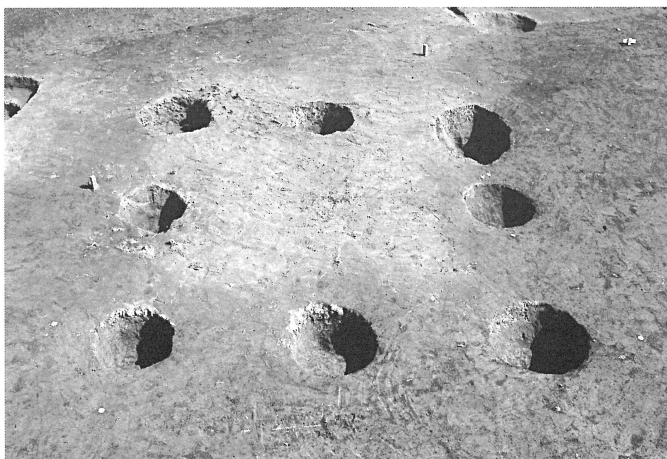
8-10c B109c



B110 8-9



8-8 B111

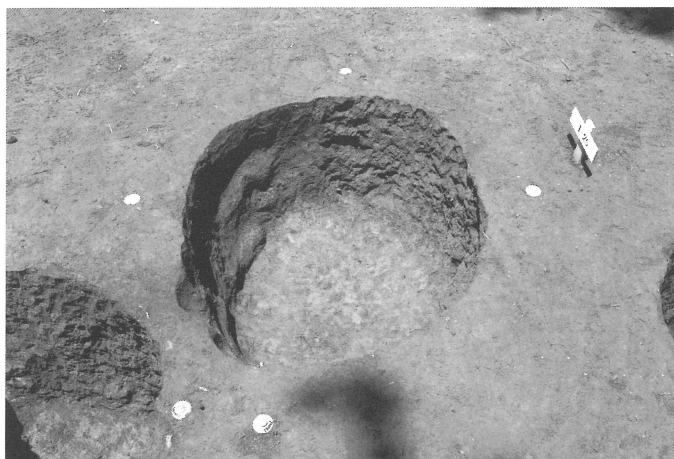


B112 8-7

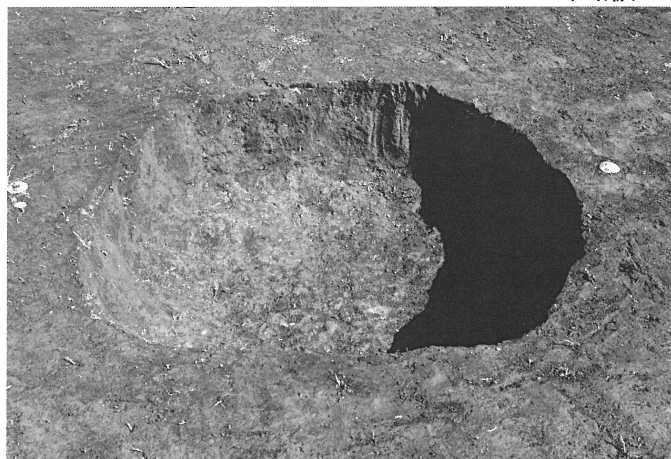


8-19





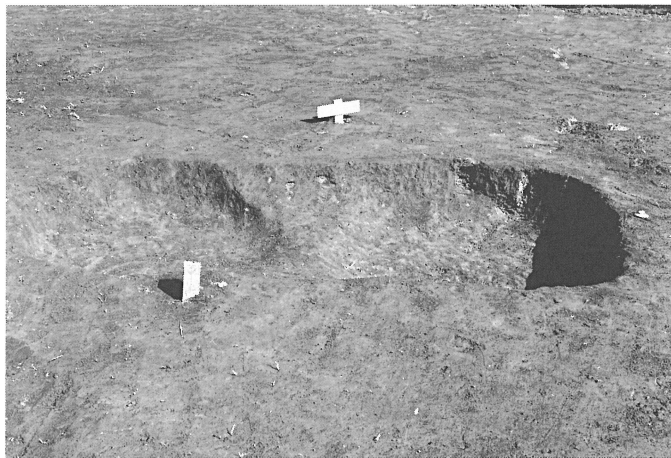
1-25



8-12



8-12



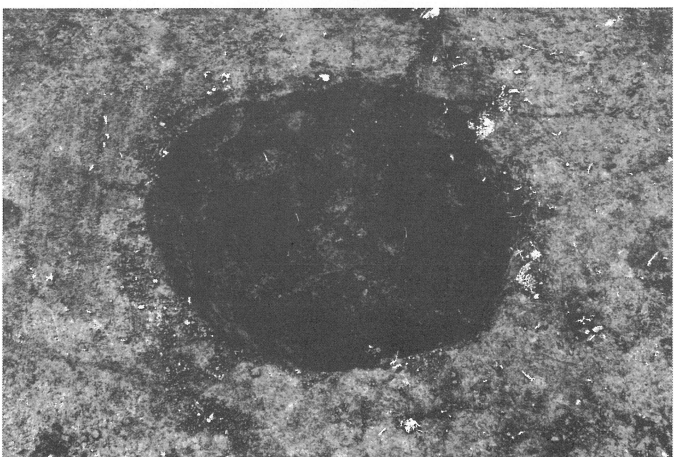
8-13



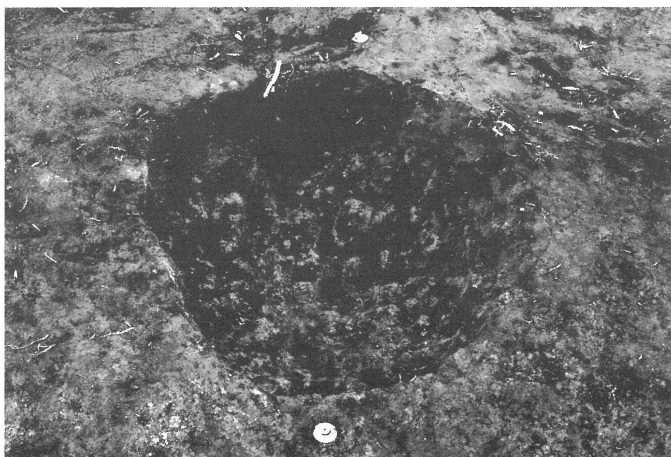
8-15



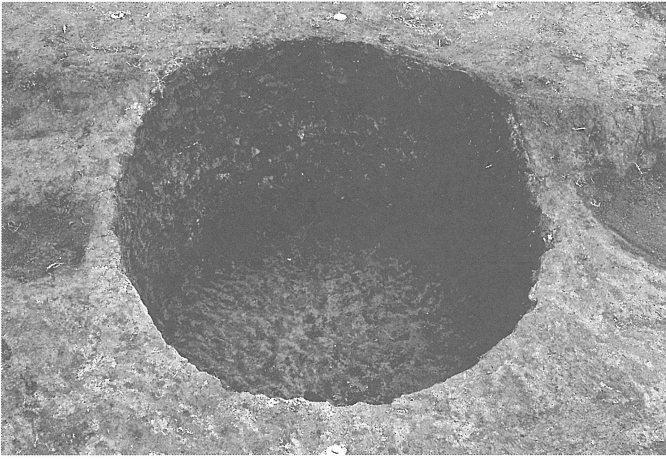
8-20



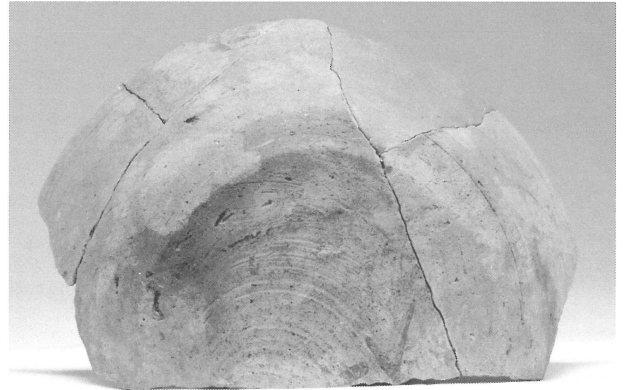
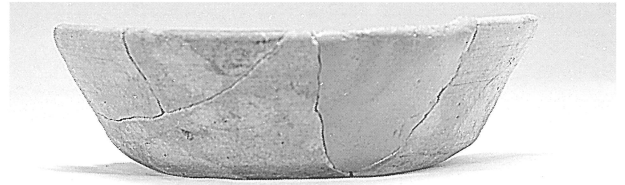
8-20



8-17



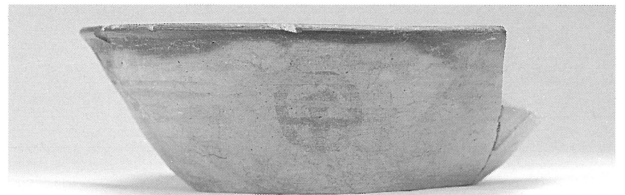
8-18



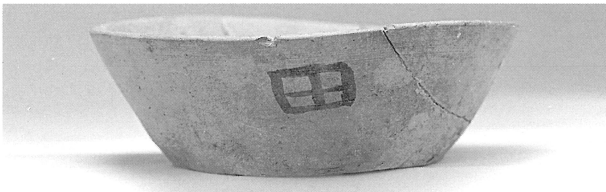
8-3



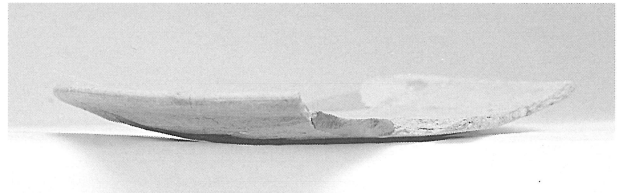
8-3



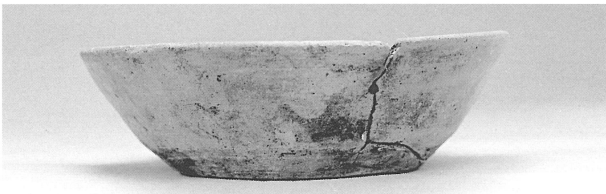
8-3



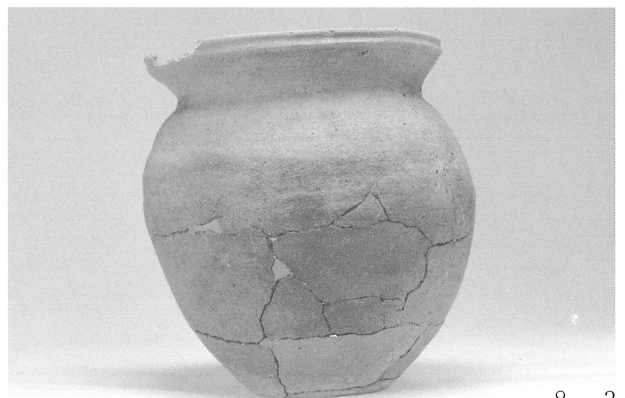
8-3



8-3



8-3



8-3



8-3



8-3



8-3



8-3



1号塚



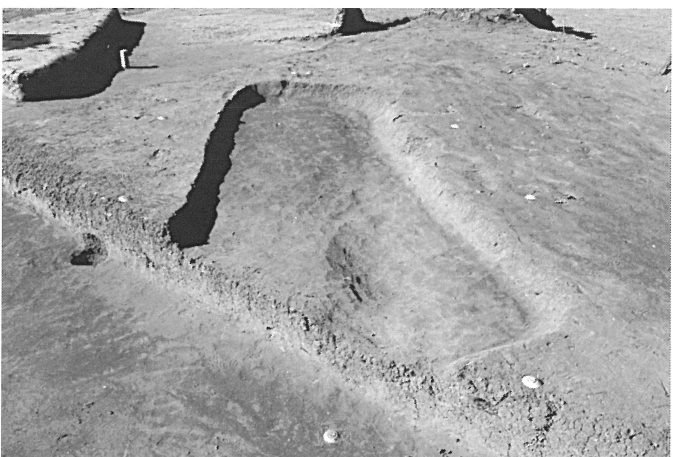
2号塚



3号塚



3号塚



3号塚



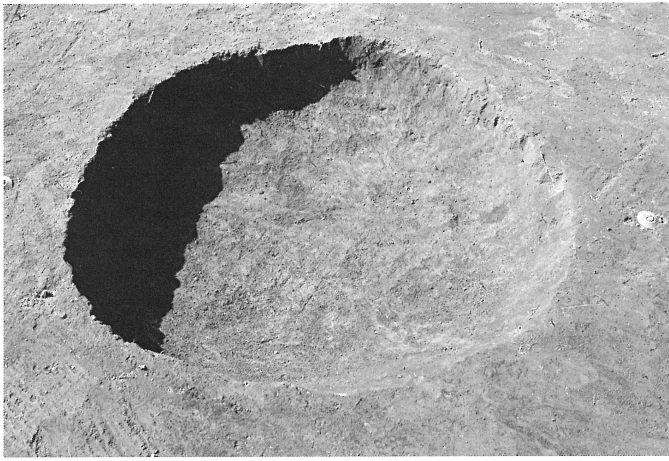
4号塚



5号塚



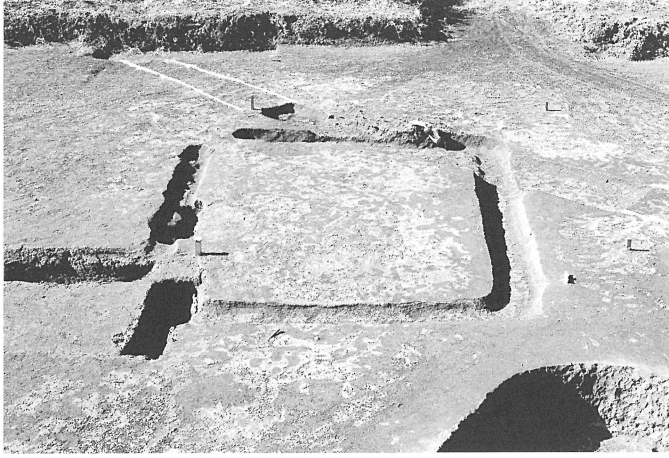
6-13



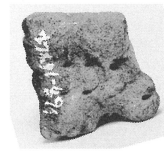
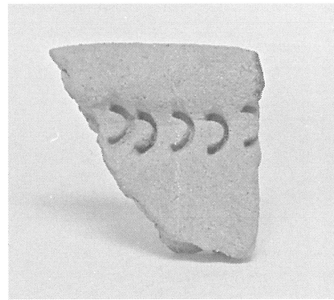
8-11



1-35



6-7



グリッド遺物 撚糸紋土器

## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよしさかいほりいせき(かしょう) やちよカルチャータウンかいほつじぎょう まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょⅣ
書名	千葉県八千代市境堀遺跡(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅳ
編集者名	宮澤 久史
編集機関	八千代市遺跡調査会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 (八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課内) TEL 047-483-1151
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかいほり 境堀遺跡	やちよしかのあざやつだい 八千代市神野字谷津台1105外	12221	73	35度 45分 38秒	140度 7分 47秒	19921022~ 19930820 19940809~ 19941028 19941114~ 19951205 19960105~ 19960220 19960120~ 19960321 19971219~ 19980127	2,260m <sup>2</sup>  1,016m <sup>2</sup> 16,000m <sup>2</sup> 5,100m <sup>2</sup> /  174m <sup>2</sup> 1,570m <sup>2</sup> 1,286m <sup>2</sup>  230m <sup>2</sup>	大学建設 住宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境堀遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 2軒 炉穴 5基 土坑 16基	縄文土器、石器	
	集落跡	弥生・古墳時代	竪穴住居跡 24軒 土坑 3基	弥生土器、古墳時代土師器 土製品	
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡 20軒 掘立柱建物跡18棟 土坑 14基 その他の遺構 6基	奈良・平安時代土師器、須恵器 土製品、石製品、鉄製品	
	包蔵地	中・近世	塚 5基 土塁 4条 溝 9条 土坑 4基 その他の遺構 1基	縄文土器、弥生土器 奈良・平安時代土師器、須恵器 土製品、石製品、鉄製品 古銭、鉄砲玉	

千葉県八千代市  
境 堀 遺 跡

(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

---

---

2005年 3月31日発行

編 集 八千代市遺跡調査会  
千葉県八千代市大和田138-2  
(八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課内)

発 行 大成建設株式会社  
東京都新宿区西新宿1-25-1

---

---